



平成29年12月12日

各 位

会社名 日本テレホン株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 岡田 俊哉  
 (東証 JASDAQ スタンダード: 9425)  
 問合せ先 執行役員企画財務本部長 寺口 洋一  
 電話番号 03-3346-7811

平成30年4月期第2四半期業績予想数値の修正  
 および通期業績予想数値の修正に関するお知らせ

当社は、平成29年6月13日付け「平成29年4月期 決算短信 [日本基準] (非連結)」にて公表いたしました平成30年4月期第2四半期累計期間(平成29年5月1日から平成29年10月31日)の業績予想数値を修正することといたしましたのでお知らせ申し上げます。

また、これに伴い、平成30年4月期通期(平成29年5月1日から平成30年4月30日)の業績予想数値を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせ申し上げます。

記

1. 平成30年4月期 第2四半期累計期間の業績予想数値の修正  
 (平成29年5月1日～平成29年10月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	3,017	△15	△15	△21	△6.19
今回修正予想 (B)	2,508	△80	△86	△92	△27.28
増減額 (B-A)	△509	△65	△70	△71	
増減率 (%)	△16.9	—	—	—	
(ご参考) 前期第2四半期実績 (平成29年4月期第2四半期)	2,777	△22	△25	△29	△8.79

2. 平成30年4月期 通期業績予想数値の修正  
 (平成29年5月1日～平成30年4月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	6,408	30	30	16	4.80
今回修正予想 (B)	5,160	10	3	△47	△13.97
増減額 (B-A)	△1,247	△20	△27	△63	
増減率 (%)	△19.5	△66.2	△88.8	—	
(ご参考) 前期実績 (平成29年4月期)	5,707	△58	△62	△77	△22.74

### 3. 業績予想数値修正の理由

#### (1) 第2四半期累計期間の業績予想数値の修正理由

当社の主力事業である移動体通信関連事業におきましては、各移動体通信事業者の「キャリアショップ」において、ご来店いただくお客様へのスマートフォン販売はもとより、ご家族のスマートフォンの買い替えや光回線提案等、料金節約試算や利用体験を交えた提案に注力してまいりました。「ビヨンド・イマジネーション」を接客ポリシーとして店舗従業員に浸透させることで、お客様へのサービスレベル向上に努め、ショップクオリティに準じた手数料獲得増加に尽力いたしましたが、すべてのキャリアを取り扱う「情報通信ショップ」の閉店における影響等があり、業績予想を下回る結果となりました。

一方、リユース関連事業におきましては、既存取引先や新規開拓の国内外の法人向けを中心とした販売に注力すると共に、国内外の企業から幅広く同商品を調達することに重点を置いた施策を展開した結果、売上高においては業績予想を上回る結果となりましたが、収益面においては、個人向けの販売における収益減少を吸収するまでにはいたりませんでした。

この結果、当第2四半期累計期間における経営成績は、売上高において 2,508 百万円と前回予想数値 3,017 百万円に比べ 509 百万円、16.9%下回る見込みであります。

営業損益につきましては、引き続き一般管理費の削減を始めとした経営の効率化に努めてまいりましたが、営業損失 80 百万円と前回予想数値 15 百万円の営業損失に比べ 65 百万円下回る見込みであり、経常損益につきましては、取引上における受取手数料等の 0 百万円の営業外収益があったものの、和解金等の 6 百万円の営業外費用を計上した結果、経常損失 86 百万円と前回予想数値 15 百万円の経常損失に比べ 70 百万円下回る見込みであります。

四半期純損益につきましては、固定資産除却損 5 百万円等を計上した結果、四半期純損失 92 百万円と前回予想数値 21 百万円の四半期純損失に比べ 71 百万円下回る見込みであります。

#### (2) 通期業績予想数値の修正理由

通期の業績予想数値の主な修正理由につきましては、当社の主力事業である移動体通信関連事業においては、今後もスマートフォンを中心に需要は堅調に推移するものと予測されるものの、更なる市場競争の激化に加え、MVNO（仮想移動体通信事業者）各社が提供する「格安スマホ」端末の普及により、販売数量および売上高の微減を伴いつつも端末販売以外の新領域商品群の拡販にて一定水準の収益状況が続くものと思われま。

また、リユース関連事業におきましては、インターネットを利用した個人間売買が急速に広がっており、中古携帯電話市場における商品流通方法が従前と変化してきている中、中古携帯電話機の調達相場の高騰や、販売価格の下落等、調達量・価格両面にて、市場環境は競争が激しくなることが予想されます。

このような事業環境の中、移動体通信関連事業においては、すべてのキャリアを取り扱う「情報通信ショップ」の規模を縮小し、「キャリアショップ」に経営資源の再配置を行います。また、リユース関連事業におきましては、個人向けの販売を終了し、堅調に推移している法人向けの販売に、より一層注力してまいります。

当社といたしましては、上記の見通しを踏まえ通期の業績予想数値について、売上高 5,160 百万円と前回予想数値 6,408 百万円に比べ 1,247 百万円、19.5%下回る見込みであります。

また、営業損益につきましては、営業利益 10 百万円と前回予想数値 30 百万円に比べ 20 百万円、66.2%下回る見込みであり、経常損益につきましても、経常利益 3 百万円と前回予想数値 30 百万円に比べ 27 百万円、88.8%減少、また、当期純利益におきましては、リユース関連事業における個人向け販売の終了における当該在庫の特別損失等の合計 43 百万円を見込み、当期純損失 47 百万円と前回予想数値 16 百万円に比べ 63 百万円減少となる見込みであります。

以上

※ 業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づいて算出したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。